

プラネタリウムを 振り返る



川口市立科学館 根本しおみ

これまでお世話になったプラネタリウム

1 . 杉並区立科学館 1995年～2001年（5年3ヶ月）

その後の人生に言葉では語り尽くせない影響を受けました。

2 . 葛飾区郷土と天文の博物館

2001年～2004年（2年6ヶ月）

「人からお金をとってプラネタリウムを投影する。」
ということについて、いろいろ勉強させていただきました。

3 . 渡辺教具製作所 2002年～2004年（1年6ヶ月）

規模は小さくても、お客様の感動の大きさは同じ。

4 . 川口市立科学館 2004年～（現在1年8ヶ月目）

まだまだ、これからです。

この10年、プラネタリウムでの天文教育・普及について
何が変わっただろうか？

1 . 学習指導要領の変更

学習投影にくる学年が、5年・6年・中1 から、
4年・中1（川口市では）へ。

来る学校が、1学年分減る

入館者数が減る

学校で宿題にでなくなる

調べに来る子供が減る
（館の収入が減る）

小学校で一回しか来ないから、月も星もやってほしい。

4年生には過重

この10年、プラネタリウムでの天文教育・普及について
何が変わっただろうか？

2 . 学校が土曜日休みになった

土曜日に小中学生向けの講座を設置

土曜日の入館者数増。
(多分)



この10年、プラネタリウムでの天文教育・普及について何が変わっただろうか？

3 . 少子化

子供の数が減ったことにより、子供の教育に手をかける親が増えた。

「親子で参加」型講座に人気

川口市立科学館では...

小・中学生向け天文講座「星の教室」を昨年度より開催。

「親子で参加可」にしたところ、参加者の半数は大人になった。

この10年、プラネタリウムでの天文教育・普及について何が変わっただろうか？

3 . 少子化

川口市立科学館では...

小・中学生向け天文講座「星の教室」を昨年度より開催。

「親子で参加可」にしたところ、参加者の半数は大人になった。



天文に興味はある。

でも、大人向けの講演会に行こうというほどではない。

子供向けならやさしくて楽しそう。

子供と共通の話題ができた。



これからのプラネタリウムでの天文教育・普及について

天文学は宇宙に住む知的生命体としてのマナー。
身に付けておかねば。

宇宙に住んでいる限り、人間の宇宙に対する
興味・関心は不滅のはず。



知的な刺激を受けることは、知的な生命体にとって
最高の癒し。

これからのプラネタリウムでの天文教育・普及について

宇宙に誇れる地球人を育てるため
プラネタリウム担当者は
さらに学と芸にみがきをかけて
天文教育・普及にうちこもう。



実践例：「あなたが天文学の学生になる3日間」（略して「あなてん」）
-太陽系外惑星偏-

2005年9月5日～7日、7人の講師を招いて全国のプラネタリウム担当者24人が西はりま天文台に3日間こもり、太陽系外惑星科学の勉強会を行いました。参加者はここで勉強した最先端の知識を生かして、各館で系外惑星に関する事業を行っています。今後も最先端の天文学を学び、それをプラネタリウム事業に還元していく予定です。